

** ご使用の際は、電子化された添付文書をよくお読みください

クラスⅢ細菌検査用シリーズ
赤痢菌キット

赤痢菌免疫血清「生研」

志賀赤痢菌A多価、志賀赤痢菌A1多価、志賀赤痢菌1型、志賀赤痢菌2型、志賀赤痢菌3型、志賀赤痢菌4型、
志賀赤痢菌5型、志賀赤痢菌6型、志賀赤痢菌7型、志賀赤痢菌8型、志賀赤痢菌9型、志賀赤痢菌10型、
志賀赤痢菌11型、志賀赤痢菌12型、
フレキシネル赤痢菌B多価、フレキシネル赤痢菌Ⅰ型、フレキシネル赤痢菌Ⅱ型、フレキシネル赤痢菌Ⅲ型、
フレキシネル赤痢菌Ⅳ型、フレキシネル赤痢菌Ⅴ型、フレキシネル赤痢菌Ⅵ型、
フレキシネル赤痢菌(3)4群、フレキシネル赤痢菌6群、フレキシネル赤痢菌7(8)群、
ボイド赤痢菌C多価、ボイド赤痢菌C1多価、ボイド赤痢菌C2多価、ボイド赤痢菌C3多価、
ボイド赤痢菌1型、ボイド赤痢菌2型、ボイド赤痢菌3型、ボイド赤痢菌4型、ボイド赤痢菌5型、
ボイド赤痢菌6型、ボイド赤痢菌7型、ボイド赤痢菌8型、ボイド赤痢菌9型、ボイド赤痢菌10型、
ボイド赤痢菌11型、ボイド赤痢菌12型、ボイド赤痢菌13型、ボイド赤痢菌14型、ボイド赤痢菌15型、
ボイド赤痢菌16型、ボイド赤痢菌17型、ボイド赤痢菌18型、
ソンネ赤痢菌D多価、ソンネ赤痢菌Ⅰ相、ソンネ赤痢菌Ⅱ相

【一般的な注意】

1. 本品は体外診断用医薬品であり、それ以外の目的に使用しないでください。
2. 診断は他の関連する検査結果や臨床症状等に基づいて総合的に判断してください。
3. 赤痢菌の血清型は追加される可能性があり、本試薬により陰性とされた株であっても赤痢菌を否定することはできません。
- ** 4. 電子化された添付文書以外の使用方法については、結果の信頼性を保証致しません。
5. 本品には、保存剤としてアジ化ナトリウムが含まれていますので、誤って目や口に入れたり、皮膚に付着した場合には水で十分に洗い流す等の応急措置を行い、必要があれば医師の手当て等を受けてください。

【形状・構造等(キットの構成)】

1. 単品
 - 1) 多価血清
(1) 志賀赤痢菌A多価、志賀赤痢菌A1多価
志賀赤痢菌各多価血清 各2mL
各血清型に対する抗志賀赤痢菌ブタ又は、ブタ及びウサギ血清他を含有する液剤で、検出対象は志賀赤痢菌の下記の型です。保存剤としてアジ化ナトリウムを0.08w/v%含みます。
A多価 : 1型, 2型, 3型, 4型, 5型, 6型, 7型
A1多価 : 8型, 9型, 10型, 11型, 12型
 - (2) フレキシネル赤痢菌B多価
フレキシネル赤痢菌B多価血清 2mL
各血清型に対する抗フレキシネル赤痢菌ブタ又は、ブタ及びウサギ血清他を含有する液剤で、検出対象はフレキシネル赤痢菌の下記の型です。保存剤としてアジ化ナトリウムを0.08w/v%含みます。
B多価 : Ⅰ型, Ⅱ型, Ⅲ型, Ⅳ型, Ⅴ型, Ⅵ型,
(3) 4群, 6群, 7(8)群
 - (3) ボイド赤痢菌C多価、ボイド赤痢菌C1多価、
ボイド赤痢菌C2多価、ボイド赤痢菌C3多価
ボイド赤痢菌各多価血清 各2mL
各血清型に対する抗ボイド赤痢菌ブタ又は、ブタ及びウサギ血清他を含有する液剤で、検出対象はボイド赤痢菌の下記の型です。保存剤としてアジ化ナトリウムを0.08w/v%含みます。
C多価 : 1型, 2型, 3型, 4型, 5型, 6型, 7型
C1多価 : 8型, 9型, 10型, 11型
C2多価 : 12型, 13型, 14型, 15型
C3多価 : 16型, 17型, 18型

(4) ソンネ赤痢菌D多価

ソンネ赤痢菌D多価血清 2mL
各血清型に対する抗ソンネ赤痢菌ブタ又は、ブタ及びウサギ血清他を含有する液剤で、検出対象はソンネ赤痢菌の下記の型です。保存剤としてアジ化ナトリウムを0.08w/v%含みます。
D多価 : Ⅰ相, Ⅱ相

2) 因子血清

- (1) 志賀赤痢菌1型、志賀赤痢菌2型、志賀赤痢菌3型、
志賀赤痢菌4型、志賀赤痢菌5型、志賀赤痢菌6型、
志賀赤痢菌7型、志賀赤痢菌8型、志賀赤痢菌9型、
志賀赤痢菌10型、志賀赤痢菌11型、志賀赤痢菌12型
赤痢菌免疫血清 各2mL
志賀赤痢菌抗原の各型に対する免疫グロブリン(ウサギ)他を含有する液剤で、検出対象の血清型はラベルに記載してあります。保存剤としてアジ化ナトリウムを0.08w/v%含みます。
- (2) フレキシネル赤痢菌Ⅰ型、フレキシネル赤痢菌Ⅱ型、
フレキシネル赤痢菌Ⅲ型、フレキシネル赤痢菌Ⅳ型、
フレキシネル赤痢菌Ⅴ型、フレキシネル赤痢菌Ⅵ型、
フレキシネル赤痢菌(3)4群、フレキシネル赤痢菌6群、
フレキシネル赤痢菌7(8)群
赤痢菌免疫血清 各2mL
フレキシネル赤痢菌抗原の各型・群に対する免疫グロブリン(ウサギ)他を含有する液剤で、検出対象の血清型はラベルに記載してあります。保存剤としてアジ化ナトリウムを0.08w/v%含みます。
- (3) ボイド赤痢菌1型、ボイド赤痢菌2型、
ボイド赤痢菌3型、ボイド赤痢菌4型、
ボイド赤痢菌5型、ボイド赤痢菌6型、
ボイド赤痢菌7型、ボイド赤痢菌8型、
ボイド赤痢菌9型、ボイド赤痢菌10型、
ボイド赤痢菌11型、ボイド赤痢菌12型、
ボイド赤痢菌13型、ボイド赤痢菌14型、
ボイド赤痢菌15型、ボイド赤痢菌16型、
ボイド赤痢菌17型、ボイド赤痢菌18型
赤痢菌免疫血清 各2mL
ボイド赤痢菌抗原の各型に対する免疫グロブリン(ウサギ)他を含有する液剤で、検出対象の血清型はラベルに記載してあります。保存剤としてアジ化ナトリウムを0.08w/v%含みます。

(4) ソンネ赤痢菌Ⅰ相, ソンネ赤痢菌Ⅱ相

赤痢菌免疫血清 各2mL
ソンネ赤痢菌抗原の各相に対する免疫グロブリン(ウサギ)他を含有する液剤で, 検出対象の血清型はラベルに記載してあります。保存剤としてアジ化ナトリウムを0.08w/v%含みます。

2. セット品

1) 赤痢菌免疫血清「生研」1号セット

下記に記載の血清49本(多価血清8本, 因子血清41本: 各2mL)のセット品です。

志賀赤痢菌A多価, A1多価

フレキシネル赤痢菌B多価

ボイド赤痢菌C多価, C1多価, C2多価, C3多価

ソンネ赤痢菌D多価

志賀赤痢菌1型, 2型, 3型, 4型, 5型, 6型, 7型, 8型, 9型, 10型, 11型, 12型

フレキシネル赤痢菌Ⅰ型, Ⅱ型, Ⅲ型, Ⅳ型, Ⅴ型, Ⅵ型, (3)4群, 6群, 7(8)群

ボイド赤痢菌1型, 2型, 3型, 4型, 5型, 6型, 7型, 8型, 9型, 10型, 11型, 12型, 13型, 14型, 15型, 16型, 17型, 18型

ソンネ赤痢菌Ⅰ相, Ⅱ相

2) 赤痢菌免疫血清「生研」2号セット

下記に記載の血清19本(多価血清8本, 因子血清11本: 各2mL)のセット品です。

志賀赤痢菌A多価, A1多価

フレキシネル赤痢菌B多価

ボイド赤痢菌C多価, C1多価, C2多価, C3多価

ソンネ赤痢菌D多価

フレキシネル赤痢菌Ⅰ型, Ⅱ型, Ⅲ型, Ⅳ型, Ⅴ型, Ⅵ型, (3)4群, 6群, 7(8)群

ソンネ赤痢菌Ⅰ相, Ⅱ相

3) 赤痢菌免疫血清「生研」3号セット

下記に記載の多価血清8本(各2mL)のセット品です。

志賀赤痢菌A多価, A1多価

フレキシネル赤痢菌B多価

ボイド赤痢菌C多価, C1多価, C2多価, C3多価

ソンネ赤痢菌D多価

【使用目的】

赤痢菌の血清型の決定

【測定原理】

本品と対応する抗原を持つ赤痢菌を混和させたとき, 抗原抗体反応により, 菌体の凝集塊が生じます。この反応を肉眼的に観察して血清型別を行います。

【操作上の注意】

1. 測定試料の性質, 採取法

腸内細菌は, 菌種間で菌体抗原に交差性があり, 赤痢菌は特に腸管侵入性大腸菌との間に密接な抗原関係が知られています。検体は「厚生省監修 微生物検査必携」¹⁾等の方法に従って分離され, 生化学的性状試験によって赤痢菌と同定された菌株を使用します。

2. 妨害物質・妨害薬剤

本試験で使用する例示した培地等の非選択培地では, 反応に対する妨害性は確認されておりません。

3. その他

- 1) 培養は必ず例示した培地等の非選択性培地を用いてください。選択培地を用いた場合, 抗原の産生が不十分であったり, 自己凝集が起きやすい傾向があります。
- 2) スライド凝集法で試料と血清を混合する際は, スライドグラス上に滴加した複数の血清が交互汚染を起こさないように注意してください。
- 3) 菌株は必ず純培養されたものであることを確認してください。複数の株が混在している場合には正しく判定できない可能性があります。

【用法・用量(操作方法)】

1. 準備する器具及び試薬, 培地

- 1) 寒天培地(非選択性培地; 普通寒天培地, Heart Infusion(HI)寒天培地等: 斜面培地又は平板培地)
- 2) 孵卵器(37℃)
- 3) ピペット(5mL)
- 4) 小試験管(容量5~7mL)
- 5) 生理食塩液
- 6) ホワイトマーカーなど
- 7) スライドグラス
- 8) マイクロピペット及びチップ(5~10 μ L, 30 μ L)
- 9) 白金線又は白金耳
- 10) 蛍光灯スタンド

2. 試薬の調製方法

本品はそのまま使用します。

3. 操作法

多価血清を用いた凝集反応によりスクリーニングを行い, 次に, 陽性を示した多価血清に含まれる因子血清を用いた凝集反応により型を決定します。

1) 培養

検体を寒天培地で好気的条件下, 37℃で一夜(18~24時間)培養します。

2) 試料の調製

ピペットで小試験管に小分けした生理食塩液0.5mLに, マッチ棒の頭3~5倍程度の菌体を加え均一に浮遊して試料とします。

3) スライド凝集法

(1) 多価血清

① ホワイトマーカーなどでスライドグラスを数区画に分け, 区画毎に各多価血清を1滴(約30 μ L)滴加します。

② 試料が自己凝集を起こしていないことを確認するために, 1区画には対照として多価血清の代わりに生理食塩液を30 μ L滴加します。

③ マイクロピペットを用いて試料5~10 μ Lを多価血清及び生理食塩液と混ざらないようにスライドグラス上の各区画に滴加します。

④ 白金線又は白金耳を用いて試料と多価血清及び生理食塩液をよく混和します。

⑤ スライドグラスを前後に傾斜させながら1分間反応させて凝集の有無を観察します。

(2) 因子血清

多価血清で陽性と判定された場合, その多価血清を構成する因子血清を用いて同様に試験します。

【測定結果の判定法】

凝集の観察は, 目視にて蛍光灯スタンド等の透過光下で行います。

1. 最初に, 試料が生理食塩液との反応で乳白色の均一な懸濁液となり凝集していないことを確認します。
2. 各血清との反応では, 1分間以内に透明な背景に凝集塊が生じる強い凝集が観察されたものだけを陽性とし, 1分以降に遅れて出現する凝集や乳白色の背景に凝集塊が観察される微弱な凝集は陰性とします。

「判定上の注意」

- 1) 試料と生理食塩液に自己凝集が見られる場合は, 集落の再選択後に試験を繰り返してください。
- 2) 複数の多価血清に陽性の場合や複数の因子血清に陽性の場合, あるいは, いずれの多価血清にも陰性の場合には, 生化学的性状や運動性等の基本性状を再確認してください。
- 3) 赤痢菌と同定され, 血清型別が判定不能(複数の多価血清に陽性となる, あるいは, いずれの多価血清も陰性となる場合, 陽性を示した多価血清を構成する複数の単味血清が陽性となる, あるいは, いずれも陰性となるなど)の場合, 新たな血清型の可能性もあります。生化学的性状を再確認した後, 公的検査機関に相談してください。
- 4) 多価血清のみで血清型の決定を行わないでください。
- 5) フレキシネル赤痢菌の血清型は, 型抗原型と群抗原型の組合せにより決定します。文章末に示すフレキシネル赤痢菌の抗原構造を参考にしてください。

【性能】

1. 感度試験
赤痢菌標準株を用い、本血清1滴(約30 μ L)と対応する菌株の浮遊液5～10 μ Lを反応させたとき、目視にて顆粒状の凝集像が確認されます。
2. 正確性試験
感度試験と同様に試験を行ったとき、対応する標準株とのみ凝集し、対応しない標準株とは目視にて凝集が認められません。
3. 同時再現性試験
感度試験及び正確性試験を3回以上行ったとき、上記と同一の成績が得られます。
4. 校正用基準物質
国立感染症研究所より分与された赤痢菌血清型標準株

【使用上又は取扱い上の注意】

1. 取扱い上(危険防止)の注意
 - 1) 本品で試験を行う被検菌は赤痢菌(四種病原体等)の可能性があります。赤痢菌の確定は生化学的性状と血清型別試験によって行われますが、赤痢菌と確定された場合、取扱いにあたっては四種病原体等の取扱い基準に従ってください。
 - 2) 本品は感染性の臨床検体を対象としていますので、検体の採取、キットの操作、試料及び器具の廃棄の各場面において感染の危険のあるものとして取扱い、保護具(眼鏡、手袋、マスク等)を着用の上、十分注意をして操作してください。また、口によるピペッティングを行わないでください。なお、赤痢菌はバイオセーフティレベル2の病原体に該当します。
 - 3) 試験に用いた検体、試料及び試料の接触した容器等は、感染性のあるものとして取扱ってください。
2. 使用上の注意
 - 1) 本品は凍結をさけ、貯法(2～10℃)に従い保存してください。凍結させた試薬は、品質が変化して正しい結果が得られないことがありますので使用しないでください。また、使用時には常温(15～25℃)に30分間以上放置してから使用してください。
 - 2) 使用期限を過ぎた試薬は使用しないでください。
 - 3) 同一の製造番号であっても、試薬を注ぎ足すことは行わないでください。
 - 4) 使用後は試薬のキャップを取り違えないようにし、しっかりと閉めてください。
3. 廃棄上の注意
 - 1) 検体中には感染性物質が存在する可能性がありますので、廃液、使用済み器具などは、次のいずれかの方法で滅菌処理を行ってください。
 - (1) 最終濃度3.5vol%グルタルアルデヒド溶液に、30分間以上浸漬する。
 - (2) 0.5w/v%次亜塩素酸ナトリウム溶液(有効塩素5 000ppm)に、1時間以上浸漬する。
 - (3) 121℃で20分間以上高圧蒸気滅菌をする。
 - 2) 本品は保存剤としてアジ化ナトリウムを0.08w/v%含んでいます。アジ化ナトリウムは、鉛管、銅管と反応して爆発性の強い金属アジドを生成することがありますので、廃棄の際は多量の水と共に流してください。
 - 3) 試薬及び器具等を廃棄する場合には、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、水質汚濁防止法等の規定に従って処理してください。

【貯蔵方法・有効期間】

- 1) 貯蔵方法 2～10℃に保存
- 2) 有効期間 1年
(ラベル又は外箱に表示の使用期限内にご使用ください。)

【包装単位】

赤痢菌免疫血清「生研」シリーズ

コードNo.	品 名	包 装
200013	1号セット (多価血清8本、因子血清41本) 志賀赤痢菌A多価、志賀赤痢菌A1多価、 フレキシネル赤痢菌B多価、 ボイド赤痢菌C多価、 ボイド赤痢菌C1多価、 ボイド赤痢菌C2多価、 ボイド赤痢菌C3多価、 ソンネ赤痢菌D多価、 志賀赤痢菌1型、志賀赤痢菌2型、 志賀赤痢菌3型、志賀赤痢菌4型、 志賀赤痢菌5型、志賀赤痢菌6型、 志賀赤痢菌7型、志賀赤痢菌8型、 志賀赤痢菌9型、志賀赤痢菌10型、 志賀赤痢菌11型、志賀赤痢菌12型、 フレキシネル赤痢菌Ⅰ型、 フレキシネル赤痢菌Ⅱ型、 フレキシネル赤痢菌Ⅲ型、 フレキシネル赤痢菌Ⅳ型、 フレキシネル赤痢菌Ⅴ型、 フレキシネル赤痢菌Ⅵ型、 フレキシネル赤痢菌(3)4群、 フレキシネル赤痢菌6群、 フレキシネル赤痢菌7(8)群、 ボイド赤痢菌1型、ボイド赤痢菌2型、 ボイド赤痢菌3型、ボイド赤痢菌4型、 ボイド赤痢菌5型、ボイド赤痢菌6型、 ボイド赤痢菌7型、ボイド赤痢菌8型、 ボイド赤痢菌9型、ボイド赤痢菌10型、 ボイド赤痢菌11型、ボイド赤痢菌12型、 ボイド赤痢菌13型、ボイド赤痢菌14型、 ボイド赤痢菌15型、ボイド赤痢菌16型、 ボイド赤痢菌17型、ボイド赤痢菌18型、 ソンネ赤痢菌Ⅰ相、ソンネ赤痢菌Ⅱ相	2mL×49
200020	2号セット (多価血清8本、因子血清11本) 志賀赤痢菌A多価、志賀赤痢菌A1多価、 フレキシネル赤痢菌B多価、 ボイド赤痢菌C多価、 ボイド赤痢菌C1多価、 ボイド赤痢菌C2多価、 ボイド赤痢菌C3多価、 ソンネ赤痢菌D多価、 フレキシネル赤痢菌Ⅰ型、 フレキシネル赤痢菌Ⅱ型、 フレキシネル赤痢菌Ⅲ型、 フレキシネル赤痢菌Ⅳ型、 フレキシネル赤痢菌Ⅴ型、 フレキシネル赤痢菌Ⅵ型、 フレキシネル赤痢菌(3)4群、 フレキシネル赤痢菌6群、 フレキシネル赤痢菌7(8)群、 ソンネ赤痢菌Ⅰ相、ソンネ赤痢菌Ⅱ相	2mL×19
200037	3号セット (多価血清8本) 志賀赤痢菌A多価、志賀赤痢菌A1多価、 フレキシネル赤痢菌B多価、 ボイド赤痢菌C多価、 ボイド赤痢菌C1多価、 ボイド赤痢菌C2多価、 ボイド赤痢菌C3多価、 ソンネ赤痢菌D多価	2mL×8
210012	志賀赤痢菌 A多価	2mL×1
210029	志賀赤痢菌 A1多価	2mL×1
210036	フレキシネル赤痢菌B多価	2mL×1
210043	ボイド赤痢菌 C多価	2mL×1
210050	ボイド赤痢菌 C1多価	2mL×1
210067	ボイド赤痢菌 C2多価	2mL×1
210074	ボイド赤痢菌 C3多価	2mL×1
210081	ソンネ赤痢菌 D多価	2mL×1

コードNo.	品 名	包 装
210098	志賀赤痢菌 1型	2mL×1
210104	志賀赤痢菌 2型	2mL×1
210111	志賀赤痢菌 3型	2mL×1
210128	志賀赤痢菌 4型	2mL×1
210135	志賀赤痢菌 5型	2mL×1
210142	志賀赤痢菌 6型	2mL×1
210159	志賀赤痢菌 7型	2mL×1
210166	志賀赤痢菌 8型	2mL×1
210173	志賀赤痢菌 9型	2mL×1
210180	志賀赤痢菌 10型	2mL×1
210197	志賀赤痢菌 11型	2mL×1
210203	志賀赤痢菌 12型	2mL×1
210210	フレキシネル赤痢菌 I 型	2mL×1
210227	フレキシネル赤痢菌 II 型	2mL×1
210234	フレキシネル赤痢菌 III 型	2mL×1
210241	フレキシネル赤痢菌 IV 型	2mL×1
210258	フレキシネル赤痢菌 V 型	2mL×1
210265	フレキシネル赤痢菌 VI 型	2mL×1
210272	フレキシネル赤痢菌 (3) 4群	2mL×1
210289	フレキシネル赤痢菌 6群	2mL×1
210296	フレキシネル赤痢菌 7(8) 群	2mL×1
210302	ボイド赤痢菌 1型	2mL×1
210319	ボイド赤痢菌 2型	2mL×1
210326	ボイド赤痢菌 3型	2mL×1
210333	ボイド赤痢菌 4型	2mL×1
210340	ボイド赤痢菌 5型	2mL×1
210357	ボイド赤痢菌 6型	2mL×1
210364	ボイド赤痢菌 7型	2mL×1
210371	ボイド赤痢菌 8型	2mL×1
210388	ボイド赤痢菌 9型	2mL×1
210395	ボイド赤痢菌 10型	2mL×1
210401	ボイド赤痢菌 11型	2mL×1
210418	ボイド赤痢菌 12型	2mL×1
210425	ボイド赤痢菌 13型	2mL×1
210432	ボイド赤痢菌 14型	2mL×1
210449	ボイド赤痢菌 15型	2mL×1
210456	ボイド赤痢菌 16型	2mL×1
210463	ボイド赤痢菌 17型	2mL×1
210470	ボイド赤痢菌 18型	2mL×1
210487	ソンネ赤痢菌 I 相	2mL×1
210494	ソンネ赤痢菌 II 相	2mL×1

【主要文献】

- 1) 厚生省監修:経口感染症, 赤痢菌, 微生物検査必携, 細菌・真菌検査, 第3版, 日本公衆衛生協会, D-14(1987).

**【問い合わせ先】

デンカ株式会社 試薬学術担当

〒103-8338 東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号

フリーダイヤル 0120-206-072

受付時間 9:00～17:00 (土日祝日・弊社休業日を除く)

* 製造販売元

デンカ株式会社

新潟県五泉市木越字鏡田 1 3 5 9 番地 1

フレキシネル赤痢菌の抗原構造

菌 型	血 清	型 血 清						群 血 清			抗原構造
		I	II	III	IV	V	VI	(3)4	6	7(8)	
<i>S. flexneri</i>	1a	+	—	—	—	—	—	+	—	—	I : 4
<i>S. flexneri</i>	1b	+	—	—	—	—	—	+	+	—	I : 4, 6
<i>S. flexneri</i>	2a	—	+	—	—	—	—	+	—	—	II : 3, 4
<i>S. flexneri</i>	2b	—	+	—	—	—	—	—	—	+	II : 7, 8
<i>S. flexneri</i>	3a	—	—	+	—	—	—	+/-	+	+	III : (3, 4), 6, 7, 8
<i>S. flexneri</i>	3b	—	—	+	—	—	—	+/-	+	—	III : (3, 4), 6
<i>S. flexneri</i>	4a	—	—	—	+	—	—	+	—	—	IV : 3, 4
<i>S. flexneri</i>	4b	—	—	—	+	—	—	—	+	—	IV : 6
<i>S. flexneri</i>	5a	—	—	—	—	+	—	+	—	—	V : 3, 4
<i>S. flexneri</i>	5b	—	—	—	—	+	—	—	—	+	V : 7, 8
<i>S. flexneri</i>	6	—	—	—	—	—	+	+/-	—	—	VI : (4)
<i>S. flexneri</i>	variant X	—	—	—	—	—	—	—	—	+	— : 7, 8
<i>S. flexneri</i>	variant Y	—	—	—	—	—	—	+	—	—	— : 3, 4

この表は1984年の国際腸内細菌分類小委員会の分類命名に準拠しています。